

クルツジャパン、共創プロジェクトで展覧会を開催

パッケージ・ラベルの価値創造目指す

クルツジャパン(株) (大阪府吹田市豊津町、中根章夫社長、☎066330305050)は5月13日から29日まで、東京都千代田区丸の内「GOODDESIGN MARUNOUCHI」で、同社初の展覧会を開催した。「Packaging Inclusion vol.1(つながる)」と題した同展は、フジシールインターナショナルをはじめ、デザイナーらとの共創プロジェクトによるもの。パッケージの新たな価値の創造を目指すという。

今回はフジシールインターナショナルが提供するパウチやラベルを活用。クルツジャパンが扱う箔・ホログラムで、デザイナーが作品を手がけ提案した。初日にはオープンニングパーティーを開催した。



レゼンテーションを実施。クルツジャパンの中根社長がプロジェクトの経緯を説明したほか、デザイナー4者が作品を解説した。デザイナーのうち佐々木智也氏と小玉文氏、ラベルにまつわる作品を披露。佐々木氏は、詰め替えや保存用として採用されがちなパウチでありながらも食卓を彩る容器「Botto」を提案した。



「リングポーチ」を並べた。容器にはセキユリティー機能を持つ箔・ホログラム加工の封かんシールを貼付。QRコードが印字されており、読み取ると商品紹介や製造年月日といったトレーサビリティ情報を提供できる。小玉氏は、日常でも置きたくするような缶詰「Link can」を提案した。同アイテムにはゴールド箔加工を施した透明PETを活用。白印刷を行った上に、クリームシチューやサバの味噌煮など、中身を連想する模様をあしらっている。小玉氏は「無理して買うのではなく、デザイナーが好きで集めたものがゆくゆく非常食として役立てば」とコメントを述べた。

TOP インタビュー

クルツジャパンはこのほど、ラベルやパッケージの加飾、セキユリティーといった役割を担う箔・ホログラムの新たな価値を創出する「共創デザイナープロジェクト」を立ち上げた。フジシールインターナショナルやデザイナーらとタッグを組み、先月開催した展覧会では、箔・ホログラムを伴う作品を通じて、未来へ向けたパッケージの可能性を示している。クルツジャパンの中根章夫社長へ、プロジェクト設立の経緯や展覧会の狙いなどを聞いた。(相木)

「まずは、共創デザイナープロジェクトの構想に至った経緯を」

「箔・ホログラムが実現し得るブランド価値の向上や豊かな加飾性を、マーケティング、デザイナーの観点から踏まえてお届けしたい狙いがあります。当社は独立して50周年を迎えている日本法人として設立以来、昨年には50周年を迎えている。今回は、箔・ホログラムに求められる加飾や内容物の保護といった用途の枠を超え、包装材料メーカーのフジシールインターナショナルさまをはじめとする4者のデザイナーらと、共創」を



中根 章夫社長

共創プロジェクトによるもの。パッケージの新たな価値の創造を目指すという。

「まずは、共創デザイナープロジェクトの構想に至った経緯を」

「箔・ホログラムが実現し得るブランド価値の向上や豊かな加飾性を、マーケティング、デザイナーの観点から踏まえてお届けしたい狙いがあります。当社は独立して50周年を迎えている日本法人として設立以来、昨年には50周年を迎えている。今回は、箔・ホログラムに求められる加飾や内容物の保護といった用途の枠を超え、包装材料メーカーのフジシールインターナショナルさまをはじめとする4者のデザイナーらと、共創」を

「私には2009年に入社して、ドイツ本社と日本の橋渡し役を担っていました。当時から感じていたのは、箔・ホログラムの加飾表現の面白さです。免税店の棚を見ていたと一目瞭然でしょう。グローバルでは、ラベル全面に箔・ホログラムを活用し、華やかなデザインで商品の魅力を引き出すような使い方が目を引きます。その一方で日本では、微細な文字やロゴマークなどピンポイントで際立たせるケースが多く、控えめな印象です。文化も見る目も異なるため、パッケージ・ラベルの加飾度合いに違いが見られます」

「加えて日本では、材料や商品自体の値上げが発生した際に、箔・ホログラムが加飾表現から削られてしまうケースも。コストを鑑

“光輝く” 普遍的な存在を示す

箔・ホログラムに新たな可能性を模索

みれば仕方ないことですが、当プロジェクトを通じて、よりパーソナルで情緒的な存在として認知させていきたいです」

「私には2009年に入社して、ドイツ本社と日本の橋渡し役を担っていました。当時から感じていたのは、箔・ホログラムの加飾表現の面白さです。免税店の棚を見ていたと一目瞭然でしょう。グローバルでは、ラベル全面に箔・ホログラムを活用し、華やかなデザインで商品の魅力を引き出すような使い方が目を引きます。その一方で日本では、微細な文字やロゴマークなどピンポイントで際立たせるケースが多く、控えめな印象です。文化も見る目も異なるため、パッケージ・ラベルの加飾度合いに違いが見られます」

「加えて大量生産・大量消費を支えてきたパッケージは、送り手の意図を表現するニーズから、受け手の身近な世界を豊かにする存在へと変化を遂げています。さらに脱プラ、SDGsといった環境配慮の取り組みが推進され、パッケージの存在意義も変えるを得ない状況でしょう。このような時代だからこそ、箔・ホログラムの新たな可能性を提案するチャンスだと捉えました」

「4者のデザイナーは、パウチ、ラベル、シユリンクフィルム、紙の素材を生かしたデザイナー力があることながら、作品の活用方法でも示してくれました。商

「4者のデザイナーは、パウチ、ラベル、シユリンクフィルム、紙の素材を生かしたデザイナー力があることながら、作品の活用方法でも示してくれました。商

「4者のデザイナーは、パウチ、ラベル、シユリンクフィルム、紙の素材を生かしたデザイナー力があることながら、作品の活用方法でも示してくれました。商

「4者のデザイナーは、パウチ、ラベル、シユリンクフィルム、紙の素材を生かしたデザイナー力があることながら、作品の活用方法でも示してくれました。商

「4者のデザイナーは、パウチ、ラベル、シユリンクフィルム、紙の素材を生かしたデザイナー力があることながら、作品の活用方法でも示してくれました。商

「4者のデザイナーは、パウチ、ラベル、シユリンクフィルム、紙の素材を生かしたデザイナー力があることながら、作品の活用方法でも示してくれました。商

「4者のデザイナーは、パウチ、ラベル、シユリンクフィルム、紙の素材を生かしたデザイナー力があることながら、作品の活用方法でも示してくれました。商

「4者のデザイナーは、パウチ、ラベル、シユリンクフィルム、紙の素材を生かしたデザイナー力があることながら、作品の活用方法でも示してくれました。商

「4者のデザイナーは、パウチ、ラベル、シユリンクフィルム、紙の素材を生かしたデザイナー力があることながら、作品の活用方法でも示してくれました。商

「4者のデザイナーは、パウチ、ラベル、シユリンクフィルム、紙の素材を生かしたデザイナー力があることながら、作品の活用方法でも示してくれました。商